環境施設見学会に参加して

令和４年11月17日（木）「ながの環境エネルギーセンター及び資源再生センター」の施設見学会に参加しました。参加者は区長部副区長と一般参加者の総勢17名の参加となりました。

施設は松岡にあり、新しい大きな建物と少し古い小さな建物の２つに分かれています。新しい施設の「ながの環境エネルギーセンター」は、2019年に完成した長野広域連合が運営している可燃ごみ専用の施設で、日400tもの焼却が可能なボイラーを持った最新鋭の設備です。焼却時に出る熱エネルギーで蒸気タービンを回し発電を行っていたり、一部は隣接のサンマリンながのに温水を送ったりしています。焼却後に出る灰も分別を行い再資源の元となるものを生み出しています。見学コースの廊下は音もにおいもなく施設内であることを忘れてしまうほどでした。

隣の建物は長野市単独の施設でプラスチック類と不燃ごみの処理を行う施設です。プラごみは一度開封され、不適物を人力で分別します。プラごみと不燃ごみはそれぞれ圧縮梱包され、プラは擬木（プラ製品）になり不燃ごみは埋立てられます。

皆さんも一度エネルギーセンターにお越し頂き見学して下さい。ごみへの愛着が変わります。　（区長部）

「男女共同参画セミナー」開催

男女平等はずいぶん前から当然のこととして認識されてきていますが、社会生活において、また、家庭生活においても、さらにより良い施策や一人ひとりの意識の向上をめざしていくことが求められるところです。

男女共同参画とは、企画、立案や決定にも自分の意志で関わり、負担や責任も担い合う主体的かつ積極的な態度や行動を指します。

人権教育部会では11月21日（月）に長野市男女共同参画センター相談員の水上裕美さんにおいでいただいて講演会を開催しました。

新型コロナウイルスが急激に広まって来る中でしたので、コミわか役員と人権教育部会役員のみの参加で行いました。以下、主な講演の内容です。

演題「4つの視点から見る男女共同参画」

男女共同参画が必要なわけ

①男女が互いの人権を尊重する社会を築くため

②少子高齢化の社会情勢の急激な変化に対応できる活力ある社会を築くため

☆1つ目の視点「鳥の目」

・・・全体を俯瞰する視点（マクロな視点）

世界の各国の男女格差を測るジェンダーギャップ指数を見ると、日本は146か国中116位です。特に政治面では139位、経済面では121位で随分遅れています。

☆2つ目の視点「虫の目」・・・足元を見る目

長野県のジェンダーギャップ指数で主な項目を挙げると、行政面で管理職の男女比は38位、教育面で小学校の校長の男女比は35位、経済面で社長の男女比が41位、企業や法人の管理職の男女比は38位、以上から、意思決定の分野において女性が少ないことがわかります。

☆3つ目の視点「魚の目」・・・時代の流れを見る視点

男性の育児休業取得については従来の育児休業に加えて、今年度10月より、「産後パパ育休」がスタートしました。1990年代から共働き世帯が専業主婦世帯の数を上回るようになり、さらに増加しています。しかし、男性の育児休業取得の割合は12％でまだまだ取りづらいようです。

☆4つ目の視点「こうもりの目」

・・・相手の視点や別の角度のような逆の視点

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考えに対する意識に対して反対とする考えが賛成を超えてきています。

ですが、様々な場面において男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）が多々見られます。

最後にまとめとして、「男女共同参画・ジェンダー平等は性別に由来する不当な差別や偏見、不利益や、行動の制限、または行動の強制をなくすことを目指します」と締めくくられました。　（人権教育部会）